

**児童の実態**

本学級の児童は、学習課題に対して真面目にこつこつ取り組めるが、自分の思いや考えを伝えることが苦手である。正解を述べなくてはいけないという考えを持っていたり、思いや考えを相手に伝わるように順序立てて話したりすることに苦手意識を持っている児童が少なくない。7月に行われた児童アンケート「授業中に自分の思いや考えを安心して言えますか。」の設問においても強肯定35.3%であった。そこで、ペア活動や小グループでの話し合い活動を意図的に仕組み、対話の場を増やしているが、全体共有になると消極的になってしまい、特定の児童の発言が多くなってしまいう傾向にある。

令和4年度全国学力・学習状況調査の結果では、『話すこと・聞くこと』の領域において、「必要なことを質問し、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの内容を捉える」出題の正答率が全国正答率より、7.8ポイント上回っていたことから、話の要点を聞き取ることができていることが分かる。しかし、「互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、自分の考えをまとめる」出題の正答率は4.5ポイント上回っていたものの、多くの児童が自分の意見を進んで伝えることに苦手意識があるため、話し合いを通して何を達成しようとするのか、話し合いを通して様々な視点から検討し自分の考えを広げたり、互いの共通点や相違点等をまとめたりすることに弱さがあると考えられる。

**単元デザイン**

本単元の重点指導項目は、学習指導要領における〔思考力・判断力・表現力等〕の「A 話すこと・聞くこと」の(1)ウ「資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫すること」及び「C 読むこと」(1)ウ「目的に応じて、文章と図表などを結びつけるなどして必要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりすること」である。そこで、図表などを用いて説明する方法やその効果を教材文「町の幸福論」から学び、それに基づいて、自分たちで集めた図表や資料を活用して町の未来について発表（プレゼンテーション）することを単元ゴールに設定した。「町の未来」について説明するためには、情報を集める力や集めた情報を自分たちの発表のテーマに合わせて選ぶ力、聞き手を納得させるための工夫が必要になる。これまでの学習で、教材文を用いて、筆者の論の進め方の工夫を見つけてきている。本単元でも論の進め方の工夫を活用しながら、自分たちが描く「町の未来」の発表に必要な構成や資料の提示を考えていくことで、聞き手が分かりやすく、納得できるプレゼンテーションを行うことができるようにする。また、グループで発表までに必要な学習計画を立てたり、何を決めるために話し合うのか目的を明確にした話し合いを行ったりすることを通して、自分たちの考えを広げたりまとめたりしていく楽しさを味わえるようにすることで、正解を述べなくてはいけないと考える児童の思考の転換を創り上げていきたい。

第一次では、総合的な学習の時間に見つけてきた自分たちの町の良さを振り返りながら、町の未来についてプレゼンテーションを行うという学習課題を捉え、学習計画を立てていく。児童に、より具体的にプレゼンテーションのイメージがつくよう教師が単元ゴールの見本を簡単に見せ、自分の考えが伝わるようにするには、どのような力が必要なのかを考える。第二次では、筆者の主張を基に、教材文の構成や事例に対応した効果的な資料の活用を捉え、自分たちの町の提案内容について考えていく。第三次では、自分たちのプレゼンテーションに必要な情報を整理し、伝えたい相手、発表内容を決める。各グループで集めた情報を選び、推敲していく中で、3つの観点（①自分たちの考えが伝わる構成になっているか。②効果的な資料の活用ができているか。③相手（聞き手）にあった言葉使いになっているか。）を共有し、自分の考えや思いが伝えられるプレゼンテーションにしていく。また、兄弟グループを作り、お互いの内容を共有したり、発表練習を一緒に行ったりする活動を通して、自分たちの考えをより広げたりまとめたり、よりよいプレゼンテーションを仕上げていく過程の学びを楽しんで欲しいと考える。必要な場面では、第二次に学習した内容へ戻り、学習を深める。第四次では、これまで学習してきた力を生かしてポスターセッションでの交流を行う。作成の際の3つの観点をもとに、お互いの学びのよさを見つけ、共有しながら、3学期の総合的な学習の時間のまとめにつながるようにしていきたい。

**研究主題に迫る手立て**

安心できる学級・学校づくり ～生徒指導の三機能を生かし、子どもの主体性を育てる～

- 【自己決定】伝えたい相手や発表するために、必要な計画を自分たちで考える時間を設定する。
- 【自己存在感】考えが伝わるように表現を工夫することができるようにするために、グループ活動を仕組む。
- 【共感的人間関係】相手の考えや思いを受け入れ、自分たちの考えをより深め広げていくことができるようにするために、兄弟グループでの活動を仕組む。

**未来へ続く 四万十市 町の未来をえがこう〈全13時間〉**

学習過程	【構造と内容の把握 精査・解釈 考えの形成 共有】	【課題の設定 情報の収集 内容の検討 構成の検討 考えの形成】	【表現 共有】
学習活動	①学習の課題を確かめ、学習の見通しを立てる。 ②説明文の構成（序論・本論・結論）を確かめながら「町の幸福論」を読み、筆者の主張を考える。 ③筆者の主張と事例の結びつきについて考える。 ④図表などの資料の効果について考える。	⑤テーマの設定とグループでの学習計画を立てる。 ⑥⑦⑧構成と使う資料を考えて、プレゼンテーションを作成する。 ⑨3つの視点をもとに、聞き手に伝わりやすいプレゼンテーションになっているか、兄弟グループで話し合う。 <b>（本時）</b> ⑩⑪改善点に着目して再度見直し、より聞き手に伝わるプレゼンテーションにする。	⑫⑬プレゼンテーションの交流と単元の振り返りをする。
言語活動	自分たちの町の未来についてグループで交流しながら考えを広げ、プレゼンテーションをしよう。		
見方考え方	自分の考えが伝わるように、論の進め方、資料を活用、相手（聞き手）に応じた言葉使いなどの表現を工夫する。		

**評価規準**

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・情報と情報の関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使っている。 【(2)イ】	・資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫している。 【A(1)ウ】 ・目的に応じて、文章と図表などを結びつけるなどして必要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりしている。【C(1)ウ】	・これまでの学習や経験を振り返って学習課題を明確にし、学習の見通しを持って、粘り強く必要な情報を見つけたり、積極的に表現を工夫したりしながら、町の未来について考えたことをプレゼンテーションしようとしている。

**単元の主な資質・能力**

- 1・2年**  
伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどをくふうすること。
- 3・4年**  
話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫すること。
- 5・6年**  
資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫すること。

**単元の目標**

- 【知識及び技能】
  - ・情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができる。(2)イ
- 【思考力、判断力、表現力等】
  - ・資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができる。A(1)ウ。
  - ・目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりすることができる。C(1)ウ
- 【学びに向かう力、人間性等】
  - ・言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して思いや考えを伝え合おうとする態度を養うことができる。

**本単元終了時の目指す児童像**

自分の考えが伝わるように、論の進め方、資料を活用、相手に応じた言葉使いなどの表現を工夫することができる。

- 中1年**  
相手の反応を踏まえながら、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫すること。

6-1 **本時の目標** 自分たちのプレゼンテーションをよりよく遂行するために、観点にもとづくよさや改善点について話し合うことができる。

**本時における見方・考え方** よりよいプレゼンテーションのために構成、資料の活用、相手（聞き手）にあった言葉の使い方などについて考える。

<p><b>学習の流れ</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>3つの観点を確認</li> <li>プレゼンテーションし、気付いたことを話し合う。(兄弟グループ)</li> <li>全体で交流</li> <li>見直し・改善・作業等(自分たちのグループ)</li> <li>ふりかえり</li> </ol>	<p style="text-align: center;">未来へ続く 四万十市</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">ふりかえり</div> <div style="border: 1px solid black; width: 150px; height: 40px;"></div> <div style="border: 1px solid black; width: 150px; height: 40px;"></div> <div style="border: 1px solid black; width: 150px; height: 40px;"></div> <div style="border: 1px solid black; width: 150px; height: 40px;"></div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">各グループの伝えたいこと</div> </div>	<p>③ ② ①          ③ 相手の（聞き手）にあった言葉使いになっているか。          ② 効果的な資料の活用ができているか。          ① 自分たちの考えが伝わる構成になっているか。</p> <p>④ レベルアップをめざして、自分たちのプレゼンテーションをみがこう！</p> <p>町の未来をえがこう</p>	<p><b>評価</b></p> <p>【思考・判断・表現】          観察・タブレット（ワークシート）・ノート          観点にもとづくよさや改善点について話し合い、自分たちのプレゼンテーションを遂行しているか確認。</p> <p>B評価          よさや改善点を見つけることができる。</p> <p>A評価          複数の観点から、よさや改善点を見つけることができる。</p>
	<p>・ ○○の話をしている時、写真があるともっと分かりやすくなる。</p> <p>・ 聞き手が○年生だから、簡単な言葉にかえた方がいい。</p> <p>・ 資料の提示のタイミングをかえると聞き手に伝わりやすい。</p> <p>・ 棒グラフより円グラフの方が内容がより伝わる。</p> <p>・ 具体的な数値を入れると聞き手がイメージしやすい。</p> <p style="text-align: center;">気づいたこと</p>		

つかむ・見通す

解決活動

まとめ・ふり回り

◆課題をつかむ。

T: みなさんはこれまで、グループでプレゼンテーションを作ってきましたね。そこで、今日は？

C: 兄弟グループで見合うがやる。

T: そうですね。何のため？

C: もっといいものにするため。

T: すごいね。いいものを作りたいという意欲が感じられますね。それでは、みなさんはこれまで、3つの観点をもとにプレゼンテーションを作ってきましたね。3つの観点は何かだったか？

C: 自分たちの考えが伝わる構成になっているか。

C: 効果的な資料の活用ができていますか。

C: 相手にあった言葉使いになっているか。

T: そうでしたね。では、その3つの観点をもとに、今よりもレベルアップできるようにグループで取り組んでみてください。

◆本時の課題を知る。

レベルアップをめざして、自分たちのプレゼンテーションをみがこう！

◆兄弟グループで発表を聞き合い、改善点について話し合う。  
 ※他のグループのよさや改善点をメモしながら、聞くことを確認する。また、何について話し合うのか観点を明確にして話し合うことを助言する。

C: 資料の順番を入れ換えた方が、内容がもっと伝わると思うよ。

C: 「たくさん」という言葉を使っていたけど、具体的な数値があると聞き手は、なるほどと思うんじゃないかな？

C: 資料の提示だけど、「○○」の後に見せた方が、もっと分かりやすいと思ったよ。

C: この内容は、棒グラフより、折れ線グラフの方が伝わるね。  
 ※話し合いのツールとして chromebook を活用する。

◆兄弟グループで考えたことを全体で共有する。

T: プレゼンテーションを聞き合って、どんな気付きがありましたか？

C: 聞き手が○年生だから、もっと簡単な言葉を使う必要があることに気がきました。

C: 論の進め方（構成）を再度、見直してみようと思いました。

C: グラフもいろいろあるので、どのグラフが内容とあっているか考える必要があることが分かりました。

◆自分たちのグループのプレゼンテーションについて推敲する。

◆まとめ・ふりかえり

※自分たちのプレゼンテーションが聞き手により伝わりやすくするにはどうすればよいのかや分かったことなど、振り返りをしっかり書き、次の学習へつなげる。